月刊 しばうら

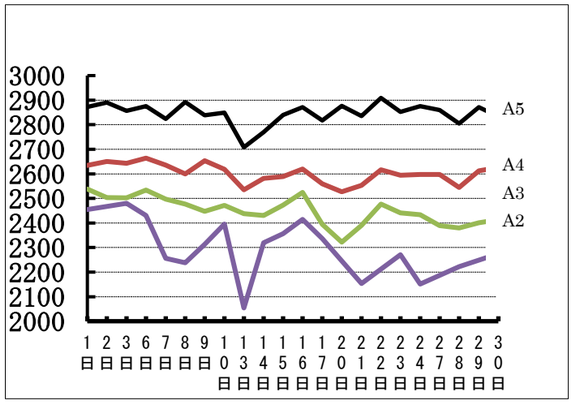
2016年7月号

大動物事業部

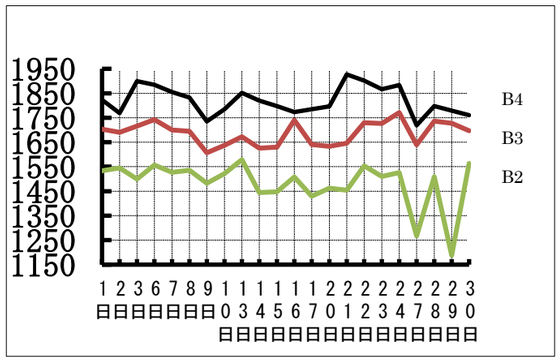
＜６月の相場動向＞

６月の牛枝肉相場は、和牛去勢Ａ５が前月比 28 円安、同 A4 が 79 円安、同 A3 が 100 円安、同 A2 が 142 円安、交雑牛も、去勢 B3 が 29 円安、同 B2 が 76 円安となり全国的に出荷頭数が少ない中で末端需要の落ち込みなどから和牛、交雑牛とも枝肉相場は月を通じて軟調に推移した。

和牛去勢　日別相場表（6 月）



交雑去勢　日別相場表（6 月）



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5　2,852 円	116.0%	99.0%
A4　2,606 円	115.1%	97.1%
A3　2,454 円	115.1%	96.1%
A2　2,292 円	114.0%	94.2%
交雑去勢月平均	**前年同月比**	**前月比**
B4　1,815 円	104.1%	98.1%
B3　1,680 円	102.2%	98.3%
B2　1,498 円	97.4%	95.1%
乳牛去勢月平均	**前年同月比**	**前月比**
B3　上場なし		
B2　1,094 円	97.4%	100.4%

＜７月の全国出荷頭数予測＞

農水省統計部が発表した 5 月の食肉流通統計による全国のと畜頭数は、前年同月比 2.4%減の 8 万 900 頭となった。うち和牛は 5.8%減の 3 万 3,682 頭、乳用種は 1.8%減の 2 万 8,504 頭、交雑種は 4.7%増の 1 万 7,894 頭と引き続き前年実績を下回った。

農畜産業振興機構によると、7 月の出荷予測頭数は、和牛をはじめ 3 品種ともに前年割れで前年比 8.4%減の 9 万 400 頭と予測している。品種別にみると和牛は 9.0%減の 4 万 900 頭、交雑種は 2.7%減の 1 万 8,200 頭、乳用種は 10.3%減の 3 万頭としている。

東京食肉市場の 7 月のと畜頭数は 7,700 頭を予定している。

＜７月の牛枝肉相場見通し＞

全国の出荷頭数は依然前年割れだが梅雨明けまで末端消費の回復は見込めず、参院選も控えておりマイナス要因が並ぶなか当面は引き合いが低調で推移されると予測される。しかしその後に控える行楽需要や旧盆商戦の手当などで牛肉需要が見込まれる時期であり牛枝肉相場は若干上げて強もちあいの相場展開が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800～2,900	B4	1,750～1,850
A4	2,600～2,700	B3	1,600～1,700
A3	2,450～2,550	B2	1,450～1,550
A2	2,300～2,400		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,050		

＜７月の牛肉輸入量予測＞

財務省の貿易統計によると、5 月の輸入牛肉通関量は、前年同月比 10.0%増の 4 万 6,367t となった。豪州産チルドは 1 万ｔを維持したが、豪州産全体では前年からわずかに減少した半面、米国産はバラを中心に大幅に増加したことなどから全体では 1 割増加となっている。

農畜産業振興機構は 7 月の牛肉輸入数量予測を前年比 5.3%減の 4 万 3,900t と予測している。チルドは、13.5%増の 2 万 200t で、生産量の回復に伴う米国産の増加が見込まれ、前月同様に前年比をかなり大きく上回ると見通している。フローズンでは、17.0%減の 2 万 3,500t と、牛群再構築に伴う出荷頭数の減少により豪州産が減少する一方で、チルドと同様、米国産は増加が見込まれると予測している。

輸入牛肉通関量		5 月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	10,389	10,226	101.6%
	米国	8,337	4,960	168.1%
	その他	904	718	125.9%
	合計	19,639	15,904	123.5%
フローズン	豪州	14,837	15,358	96.6%
	米国	9,405	8,701	108.1%
	その他	2,486	2,191	113.5%
	合計	26,728	26,250	101.8%

単位：t　　出典：食肉速報

小動物事業部

食肉流通統計によると、5 月の全国と畜頭数は 131 万 2,891 頭（前年同月比 105.3%）となり前年を上回った。

また、5 月分の豚肉通関実績は、総量で 6 万 7,848t（前年同月比 98.3%）と前年より下回り 7 万ｔを割った。うちチルドが 2 万 5,940t（同 101.6%）と増加し、内訳は米国が 1 万 5,044t（同 99.2%）、カナダが 9,965t（同 106.6%）に増加、メキシコが 924t（同 90.8%）と減少した。フローズンは 4 万 1,908t（同 96.3%）と前年より減少、デンマークが 7,979t（同 94.3%）、米国が 4,391t（同 39.2%）、カナダが 3,541t（同 82.8%）であった。

＜6 月の豚取引の推移＞

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1 日	53,200	705	681	667
2 日	63,700	715	682	637
3 日	64,200	719	676	628
6 日	59,600	718	702	637
7 日	67,600	719	686	768
8 日	59,300	691	628	628
9 日	65,400	612	553	740

上旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 1,900 頭と前年を上回る頭数であった。当市場においては平均 670 頭と前年を下回る上場頭数であった。

ＧＷ明けから上昇を続けた相場は、6 月に入っても止まることなく上物価格は 700 円台に突入した。

枝肉相場が高値を維持し部分肉セット単価が 1,000 円を超えてくる中、バラの荷動きは非常に鈍く安ければ使えるという状況等があり、ようやく量販店がチルドを中心に輸入ものへシフトした。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10 日	62,200	568	534	887
13 日	61,900	545	488	772
14 日	61,100	596	552	764
15 日	50,500	579	565	548
16 日	60,000	611	596	637
17 日	61,000	640	627	686
20 日	59,100	646	631	540

中旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 5 万 8,900 頭と前年並となり、6 万頭を割り込んだ。当市場は平均 690 頭と前年を下回った。

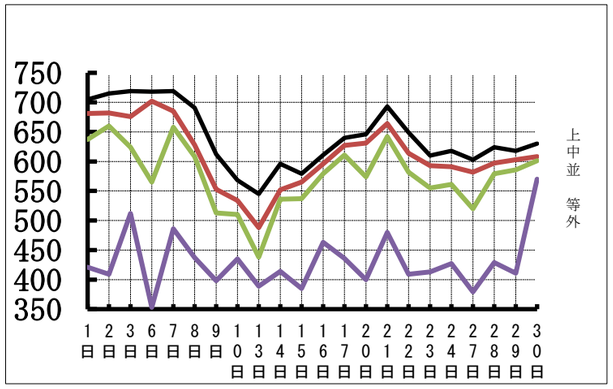
量販店のシフトチェンジにより、輸入物相場はチルドのスソ物を中心に強含みとなり荷動きも堅調であった。しかしながら国内産の需要は相変わらず強く、輸入物への切り替えはスポット的となった事もあり、上物価格 545 円（13 日）まで冷やされた枝肉相場も再び急浮上するという動きになった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21 日	61,300	693	664	709
22 日	56,000	649	614	609
23 日	60,500	698	693	668
24 日	58,200	618	591	838
27 日	58,200	603	582	666
28 日	60,300	624	597	850
29 日	57,300	618	603	572
30 日	58,400	630	608	562

下旬の全国と畜頭数は、平均 5 万 8,800 頭とほぼ前年並であった。当市場の上場頭数は 600 頭と前年を下回る結果となった。

国産・輸入チルドともにスソ物はタイトな状況が続いていたが、ここにきてフローズンまでもひっ迫してきた。中～下旬にかけての相場値動きは、国内産から輸入物へと綱引きをするように上物価格は 600 円台を大きく揺れ動く展開となった。

豚　日別相場表（6 月）



＜7 月の豚枝肉相場見通し＞

農水省による 7 月の全国と畜頭数は、124 万 7,000 頭（前年同月比 94.0%）と予測しており、一日当たりの頭数は約 6 万 2,300 頭である。当市場の 7 月の集荷予定頭数は 1 万 3,000 頭となっており、一日当たりでは約 650 頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構による 7 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 900t（前年同月比 97.9%）の予測となっている。内訳はチルドが 2 万 9,000t（同 93.1%）、フローズンは 4 万 1,900t（同 101.6%）の予測である。

また 4 月における豚肉推定在庫量は、国産品が 1 万 8,090 トン（前年同月比 108.2%）、輸入品は 15 万 5,373 トン（同 90.9%）となり合計 17 万 3,463t（同 92.3%）となった。推定出回り量は 14 万 6,269t（前年比 105.4%）で前年を上回った。うち国産品は 7 万 2,109t（同 96.3%）輸入品は 7 万 4,160t（同 116.2%）であった。国内生産量は 7 万 4,297t（同 100.1%）と引き続き前年を上回った。

今月は「英国のＥＵ離脱問題」、「中国の豚価高騰」による備蓄豚肉放出（初）と先々どのような形で相場に影響が出てくるか読みにくい世界的な出来事がおきた。

6 月の当市場上物平均価格は 637 円、中物 609 円と基本高値で推移したが、内容は上物価格 719～545 円と、週ごと日ごとに乱高下を繰り返し、まるで「ジェットコースター相場」と表現できるような流れであった。7 月の梅雨時は消費が落ち込む傾向があるが、出荷頭数が最も少なくなる時期でもある。一方輸入はいまだフローズン物が潤沢である状況を加味して 7 月の上物平均価格 650 円、中物 620 円と予測する。

出荷者の皆様へ

ＰＥＤをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南２－７－１９

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL http://www.tmmc.co.jp/